



太田市美術館・図書館 外観 (写真撮影：Daici Anō)



# 太田市美術館・ 図書館

## 選評

群馬県南東部にある太田市の駅前  
に立つ文化交流施設である。太  
田市は人口約二二〇、〇〇〇人の  
北関東随一の工業都市であり、駅  
の乗降客は一〇、〇〇〇人/日を  
超えるが、多くの地方都市に見ら  
れるように、駅前の商店街は閑散  
としている。発注者である太田市  
はここににぎわいを取り戻し、市  
民や駅利用者が気軽に滞在できる  
場として、美術館機能と図書館機  
能を整備することを計画した。そ  
の機能を単に結合することにとど  
まらず、有機的に連携することで  
個々の機能を超えた新たな価値を  
創出している。

この機能連携の背景には、たま  
たま二つの公共施設が必要だった  
という状況があるにせよ、建築主  
である行政側に機能複合のアイデ  
アがあり、それを効果的な形で具  
現化できている点が一番評価でき  
る。さらにその設計プロセスにお  
いては、地域住民とのワークショ  
ップを積極的に行っており、市民

ニーズを多角的かつ細やかに吸い  
上げていることが感じられる施設  
となっている。ワークショップの  
中で、「ボックス」をいくつ設ける  
のが適切か数多くのスタディを繰  
り返しており、ボックスの周囲を  
めぐる動線の空間検証から、奇数  
である五つが最終的に採用された  
という経緯も興味深い。また、そ  
の動線は会津のさざえ堂のように、  
スロープと階段を交えて空間の連  
続的な変化と多様な場をもたらし  
ており、様々な利用者それぞれに  
適した居場所をつくっている。環  
境配慮としては、穏やかな中間期  
が長い地域特性を生かし、自然換  
気窓を適切に配置して複雑な形状  
の内部空間を絡まるように風が流  
れるよう気流解析を行っている。  
また、採光は外周からの十分な光  
と、吹抜け部分を經由するハイサ  
イドライトが効果的に空間を演出  
している。

RC造のボックス周囲はS造で  
構成されており、ピン接合のフラ  
ットパー柱、デッキプレート表し  
の複合スラブ等、複雑な形状とな  
っている。RCと取り合う部分の

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。  
この賞は、1960年にはじまり2018年で59回を数えます。

< 2018年 第59回 BCS賞受賞作品 > 太田市美術館・図書館 高知県立高知城歴史博物館 コープ共済プラザ 新豊洲 Brillia ランニングスタジアム  
すみだ北斎美術館 洗足学園音楽大学 Silvermountain & Redcliff (e-cube) 空の森クリニック 高崎アリーナ 多治見市火葬場 華立やすらぎの社  
立川市立第一小学校 柴崎学習館 柴崎図書館 柴崎児童保育所 デンソーグローバル研修所 保養所「AQUAWINGS」日本無線先端技術センター  
パナソニック スタジアム 吹田 羽田クロノゲート 益子町地域振興拠点施設「道の駅まじこ」  
【特別賞】名駅一丁目1番計画 (JRゲートタワー、JPタワー名古屋)



# 建築主 より

## 知と感性のプラットフォームを目指して

「まちに創造性をもたらす、知と感性のプラットフォーム」として、太田市美術館・図書館は誕生しました。2017年1月の開館以来1年で来館者30万人を達成し昨年12月末で60万人を数え、多くの方々にご利用いただいております。

市民とのワークショップを重ねて出来上がった設計は、偶然にも市内に伝わる国指定重要文化財、曹源寺栄螺堂（太田市東今泉町）のような巡る構造となっています。まさに美術

館と図書館が交じり合って、街の中を歩いている感覚は、“また来よう”という気持ちになる空間であり、市民の人気スポットの1つとなりました。この度のBCS賞の受賞も誇りとなっています。

今後も、多彩な美術作品を紹介する美術館、子どもたちの豊かな情操を育くむ図書館、落語や映画上映が楽しめるホール、それぞれの特性を生かして幅広い世代に親しんでいただけるよう事業を展開してまいります。



太田市長  
**清水聖義**  
Masayoshi Shimizu

# 設計者 より

## 公共建築という生態系



株式会社平田晃久  
建築設計事務所  
**平田晃久**  
Akihisa Hirata  
(写真撮影：Luca Gabino)

太田市は人口22万人を超える、ものづくりが盛んな豊かな都市です。しかし駅前を歩く人は疎らで、街は活気を失っていました。この建築は、駅前に人々の賑わいを再び作り出すための拠点として構想されました。私たちはその目的にふさわしく、気軽に立ち寄れる立体的な街のような建築を提案しました。

周囲の建物のような5つのコンクリートの箱と、その周りをぐるぐると回る道のようなスロープが特徴です。本当に人々に使われる

場所にするために、設計上の重要な決定を市民との話し合いの場で行いました。様々な意見を手掛かりに案をまとめ上げた結果、異なる背景や年齢層の人々がそれぞれ自分の場所を見出せる、多種多様な場の集合体ことができました。それは様々な生物種が共存する自然の生態系のようなでもあります。

市民の有志、市長や市役所、施工者、設計者が志を共有して総合的に作り上げた、新しい時代の公共建築です。

# 施工者 より

## 「建ててからが本当のお付き合い」

太田市美術館・図書館は、駅前商店街の活性化の拠点として計画された建築物で、その意図を感じられる部位が多数存在しています。多種多様な施設利用者の居心地の良い空間を創造すべく、独創的かつ繊細で美しく表現された建築物であり、同時に、施工者泣かせな設計であることも率直な感想です。

「ものづくりのまち 太田」に生まれた私にとっても、創造意欲を掻き立てられる設計であり、安心・安全な建築物を地域の活性化の

ため、協力会社とともに造り込んでまいりました。このプロジェクトに関わったすべての方々の結晶とも言える建築物であり、竣工時の感動を忘れることが出来ません。

皆で造り込んだ太田市美術館・図書館を存続させるため、「建ててからが本当のお付き合い」を合言葉に、地域の発展に努めてまいります。

また、太田市民の一人として、かつての賑わいを取り戻した駅前商店街の更なる発展を期待しております。



石川建設株式会社  
工事本部 次長  
(太田市美術館・  
図書館作業所長)  
**小林哲也**  
Tetsuya Kobayashi

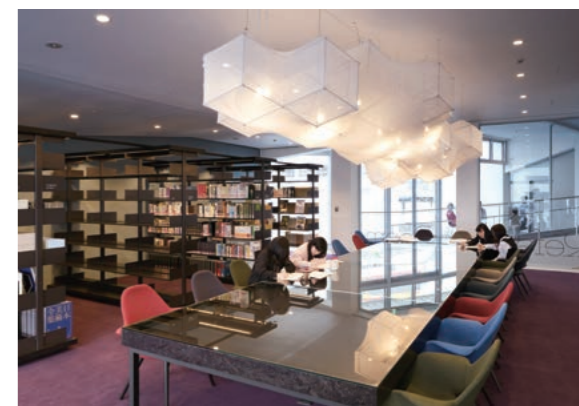


2階の絵本・児童書コーナーは、机と椅子のある落ち着いた空間。靴を脱いでくつろぐ空間もある。(写真撮影：Daici Ano)

アンカーと鉄筋の納まり等、難易度の高い施工が要求される中、施工者は高い次元でそれに応えている。特に中央部の螺旋階段は、大きなささらに切れ込みを入れてたたくことで美しい曲面をつくり、ジョイント部への気遣いが感じられる。ディテールと相まって施工技術とデザインが高い次元で融合しているといえる。一方、屋上植栽の施された躯体防水の納まりや開放される各部分の雨どいについてはやや心配される部分も見受けられた。

我々が訪れた平日の昼間でも、若い親子連れや高齢者の集まり等、幅広い世代の方々が思い思いの場所できつろぐ姿が見られた。周囲の商店街にも徐々に活気が戻ってきており、この施設の存在とともに新しいにぎわいの拠点が出来つつあることから、このプロジェクトにおける当初の目的は達成されたと言っているのではないだろうか。

【選考委員】  
山本圭介・山本茂義・賀持剛一



上・下/それぞれ自分の場所を見つけることが可能な多様な空間が広がる。(写真撮影：Daici Ano)

計画概要

建築主：太田市

設計者：(株)平田晃久建築設計事務所

施工者：石川建設(株)

所在地：群馬県太田市東本町16-30  
竣工日：2016年12月28日

敷地面積：4,641㎡  
建築面積：1,496㎡  
延床面積：3,152㎡

階数：地上3階、地下1階  
構造：鉄筋コンクリート造、鉄骨造